

3 平成23年度生における「早期臨床体験実習」の有効性の変化

天池千嘉子, 平澤明美, 本間和代, 江川広子, 渡邊美幸, 計良倫子, 小林 梢
 明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 歯科衛生士学科学生, 早期臨床体験実習, 有効性

はじめに

本学では歯科医療現場や歯科衛生士の役割を早期に理解し, その後の学習意欲を高める事を目的に, 平成10年度より早期臨床体験実習を実施してきた。

また, 平成24年3月に全国歯科衛生士協議会の作成した「歯科衛生学教育コア・カリキュラム-教育内容ガイドライン-」のなかの臨地・臨床実習プログラムにおいても「早期に臨地・臨床現場の見学実習を組むことが望ましい」と提唱されていることから, 本学取組みの有効性について検証した。

対象および方法

平成23年度歯科衛生士学科入学生66名を対象に, 本学附属歯科診療所において, 1年前期(平成23年6月~7月), 後期(平成23年12月~24年3月), 2年前期(平成24年5月~7月)の3回, 早期臨床体験実習を実施した。実習内容は, 1年次は診療所の構造の把握および歯科治療の見学等を, 臨地・臨床実習開始前の2年次は, 患者誘導, 歯科ユニット操作, 後始末などの歯科診療補助および歯科治療の見学である。早期体験実習終了後, 「早期臨床体験実習を通して学んだこと」, 「臨床実習に向けての抱負・心構え」などについて自由記載で実習記録を提出してもらった。実習記録の内容からキーワードを分類し, 本実習の有効性を分析した。

結果および考察

見学実習のみの1年前期においては, コミュニケーション能力, 身だしなみ, あいさつなどの歯科衛生士と患者との関わりについて意識した内容が多かった。1年後期は, 授業で診療補助実習も始まり, 患者誘導等も体験したことから, 患者に対する気遣いや実習の重要性が多かった。臨床実習直前の2年

次では学習の必要性を認識し, 「積極性」の大切さをあげるなど勉強意欲の向上がみられた。

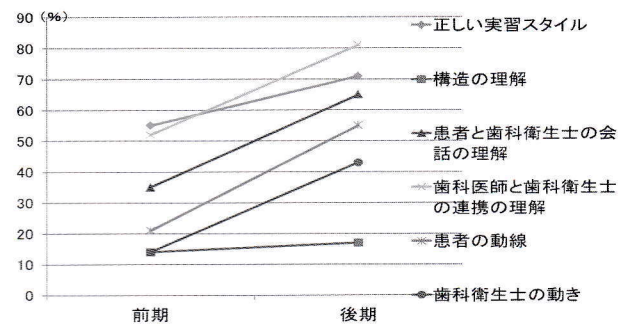


図1 1年前期・後期の自己評価の変化

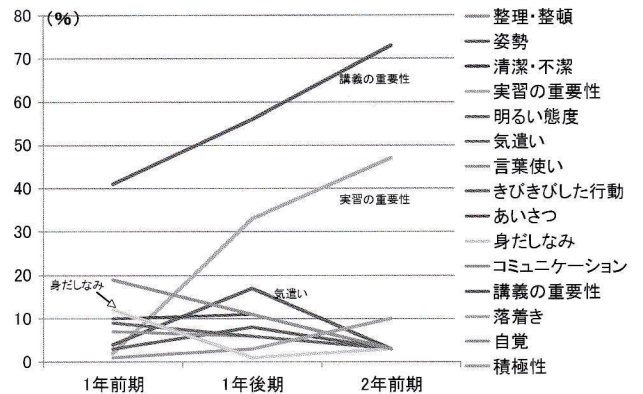


図2 早期臨床体験実習で学んだことの変化

まとめ

1年次は歯科衛生士と患者とのやり取りを見学することでコミュニケーション能力の必要性や挨拶の大切さ, 歯科衛生士の働く姿勢を感じ取っている。また, 1年後期では, 授業と早期臨床体験実習とが結びつき理解や知識が深まった。2年次は臨床実習を控えているため, 不安もあるが講義や実習に前向きに取り組もうとする姿勢も伺えた。しかし, 総体的には1・2年次の3回の早期臨床体験実習より, 学習意欲を失う感想はなく, むしろ講義や実習の大切さを実感し, 学習意欲を向上させる機会となった。